

玉本なるみ

です

連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2020年8月①号



京都市政報告懇談会を開催

日本共産党市会議員団は7月22日、新型コロナウイルス対策を中心に報告会を開き、各種団体や市民の皆さんからたくさんの方の現場の実態やご意見が寄せられました。

結局、新型コロナウイルスのPCR検査体制や入院施設などの体制は足りているのか。

京都市が今、進めようとしている「持続可能な行財政改革」では、新型コロナによる影響などはまったく考慮せず、相も変わらず、「民間にできることは民間に」「他の自治体にはない市独自の事業は見直しする」という方針の元、「敬老乗車証」や「学童う歯対策」「老人医療費助成」などを名指しで検討課題に挙げ、これからもどんどん、リストラできる所はどんどんやっていく方針に対して、憤りと怒りのご意見が出ました。

コロナの影響で国や自治体が削減してきた「保健所」「公衆衛生体制」などまったく反省がない京都市は大問題です。気がついたら、リストラされていたということにならないように市民の皆さんと力を合わせ頑張ります。



新型コロナウイルス対策の議員団取組みや市への申し入れ事項等を報告する玉本なるみ市議（左から2番目）

「消費税を下げてほしい！」

ある建設会社の方の声です。「コロナの影響で仕事は減っている。しかし、月の営業収入が50%以下まではいかない。そこまでいったら、続けられない。しかし、困っている。すべての人に平等に支援するなら消費税をしばらくの間だけでいいので下げて欲しい」と・・・。まったくその通りだと思います。他国では踏み切っています。ほんとに情けないのが、日本の安倍内閣です。オーストリアは接客業・文化関係など10%→5%。ベルギーはホテル・レストランなど12%→6%。韓国は個人事業主の付加価値税納税を減額・免除。英国は飲食・観光業など20%→5%などなど。多くの国でコロナで厳しい業種に対して、対策を取っています。運動を広げて進めましょう！

つぶやき：「制度が難しすぎる！」

商店街で、「持続化給付金など制度を利用されましたか？」とお聴きすると、その店主は申請し、給付もあったとのこと。しかし、商店街の役員をしているので、組合員さんに説明に回っても、年配の店主は、「パソコンもスマホもやらないし、そんなややこしいんやったら、申請しない」と言われるそうです。「行政が説明に回してほしい」と言われます。その通りだと思います。国や京都市の制度は手続きが煩雑で、条件もきびしく対象なのかどうかもわかりにくいのが問題です。「本気で助ける気ががあるの？」と言いたい・・・

アンテナ ALS患者Tさんの声(上)



約30年前、訪問看護を担当していた時に出会ったALS（筋萎縮側索硬化症）Tさんのことを思い出します。Tさんと最初であった時はベッドの横に座ってお話もできました。身体が動きにくくなり、病名がわからず、一生懸命運動をしていたが、やっとな病気がわかったとのことでした。残念ながら、徐々に全身の筋肉が自ら動かすことができなくなり、寝たきりになりました。話したり、食べたりできなくなって行きました。30年前はALS患者さんの在宅療養がまだ、めずらしく、人工呼吸器を付け、胃ろうから栄養を取り在宅療養をサポートしました。医師や北区役所、ヘルパーさん、訪問入浴のこぶしの里さんなどとチームで支援体制を作りました。唾（つば）が常時出てくるので、24時間体制で奥さんが吸引してくれました。まだ、指がかすかに動いていたときには息子さんがわずかな指の動きで鳴るベルを作られたのもよく覚えています。家族の並々ならぬ介護があったからこそ、成り立っていたと覚えています。透明の50音板で向かい合わせになり、本人の視点で読み取るのもとても難しかったことをよく覚えています。

Tさんの看護に携わったおかげで、もし自分だったらとよく考えるようになりました。おそらく、今回亡くなった林優里さんのように、死を考え、人に迷惑をかけたくないと思うと思います。しかし、一方で「生きたい」という思いと複雑に交錯すると思います。Tさんも奥さんが買い物に行ったりするわずかな時間に、人工呼吸器の不具合が起こったら」と心配さ、恐れと戦いながらも家族に見守れながら生き抜きました。次号でさらに深めて考えたいと思います。

つづく